

江の川下流の治水対策の歴史と 流域治水の取り組みについて

令和6年1月16日

国土交通省中国地方整備局
江の川流域治水推進室

江の川中下流域の概要

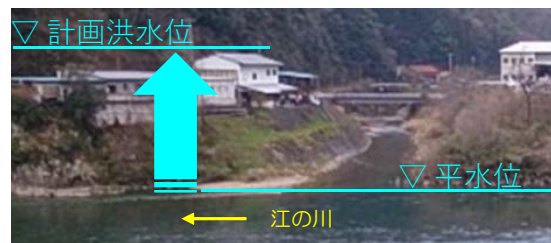
- 中国山地を貫流し広島県から島根に流れる先行河川であり中国地方最大の河川
- 人口資産が主に上流盆地（三次市）と河口の狭小な沖積平野（江津市）に集中
- その間の中下流の山間狭窄部では河岸段丘に集落が点在



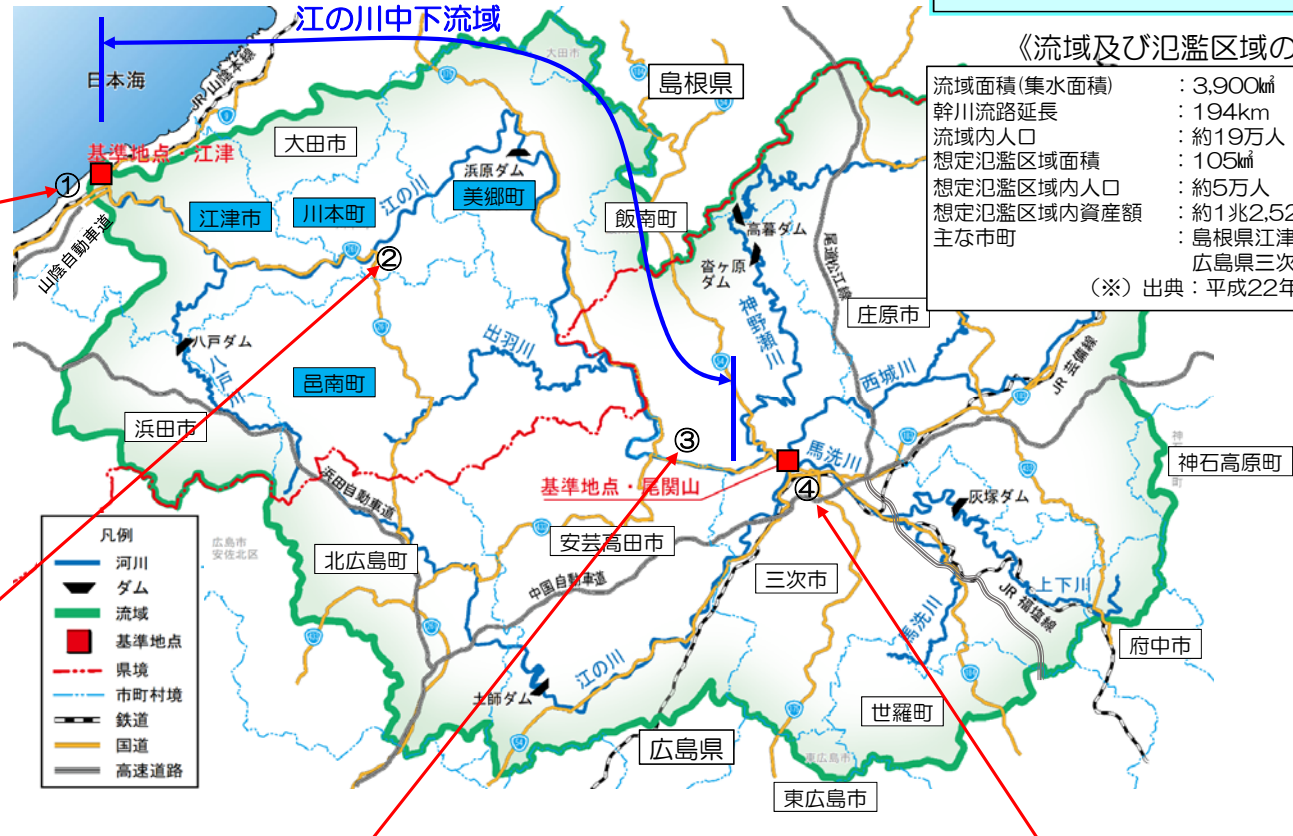
《流域及び氾濫区域の諸元》

流域面積(集水面積)	: 3,900km ²
幹川流路延長	: 194km
流域内人口	: 約19万人
想定氾濫区域面積	: 105km ²
想定氾濫区域内人口	: 約5万人
想定氾濫区域内資産額	: 約1兆2,523億円
主な市町	: 島根県江津市 広島県三次市 等

(※) 出典：平成22年河川現況調査



ひとたび洪水となれば一気に10mを超える水位上昇



昭和47年7月洪水（戦後最大）

- 昭和47年7月に江の川全域に大雨が降り、観測史上最大（戦後最大）の洪水が発生した。
- 馬洗川の左岸堤防が越水決壊するなど三次市街地をはじめとする江の川流域全域に甚大な被害をもたらした。

◆降雨の状況（2日雨量）



◆被害の状況

死者・行方不明者 28人
 家屋全半壊・一部破損 3,960戸
 家屋浸水 床上6,202戸、床下7,861戸



◆被害箇所



- ◆洪水時の避難・救助用ボート
 （江の川水系八戸川沿川）
- ・過去に経験した洪水を教訓として、共助を目的に備えている。



江津市役所提供

通常の連続堤防整備例



土地利用一体型水防災事業の経緯

◆背景・問題点

- ①川と山の間で僅かな平地に集落が点在
→治水対策の必要箇所が多数点在
- ②普通の連続堤整備方式では潰れ地が多く発生
→貴重な宅地や田畑が消失
→宅地が堤防と背後の山に挟まれ住環境が悪化
- ③通常の連続堤整備方式では延長が長くなり
改修に費用と期間を要す
→治水安全度の確保に時間を要す

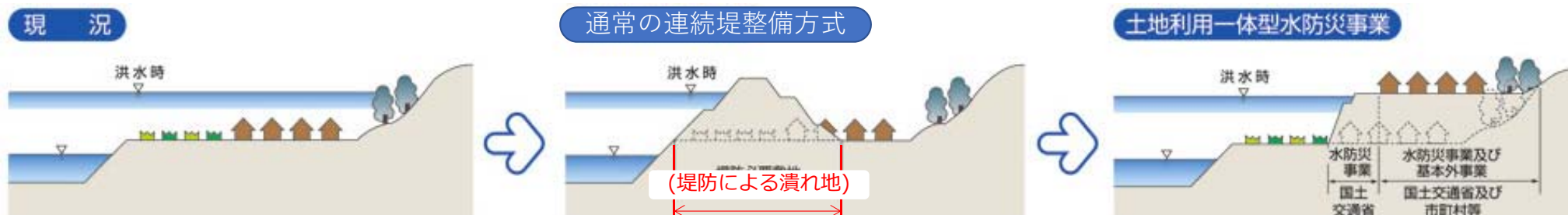


【山間部を流れる江の川と点在する集落】
(江津市：河口から20k付近)

計画洪水位まで宅地等を嵩上げし治水対策を行うとともに山間部の狭い土地を有効利用



◆水防災事業のイメージ



◆水防災事業創設の経緯

昭和50年 島根県川本町上三島地区で治水（国）、道路（県）、土地区画整理（町）が調整を図り一体的に嵩上げを行う「盛土方式」を採用

昭和60年 特定河岸地水害対策事業（補助）の創設

昭和61年 島根県邑智郡桜江町（現 江津市）志谷地区が全国で初めての採択箇所となる

平成13年 水防災対策特定河川事業（直轄）の創設

平成18年 土地利用一体型水防災事業の創設 ※平成21年に総合的な治水対策の観点で一部変更

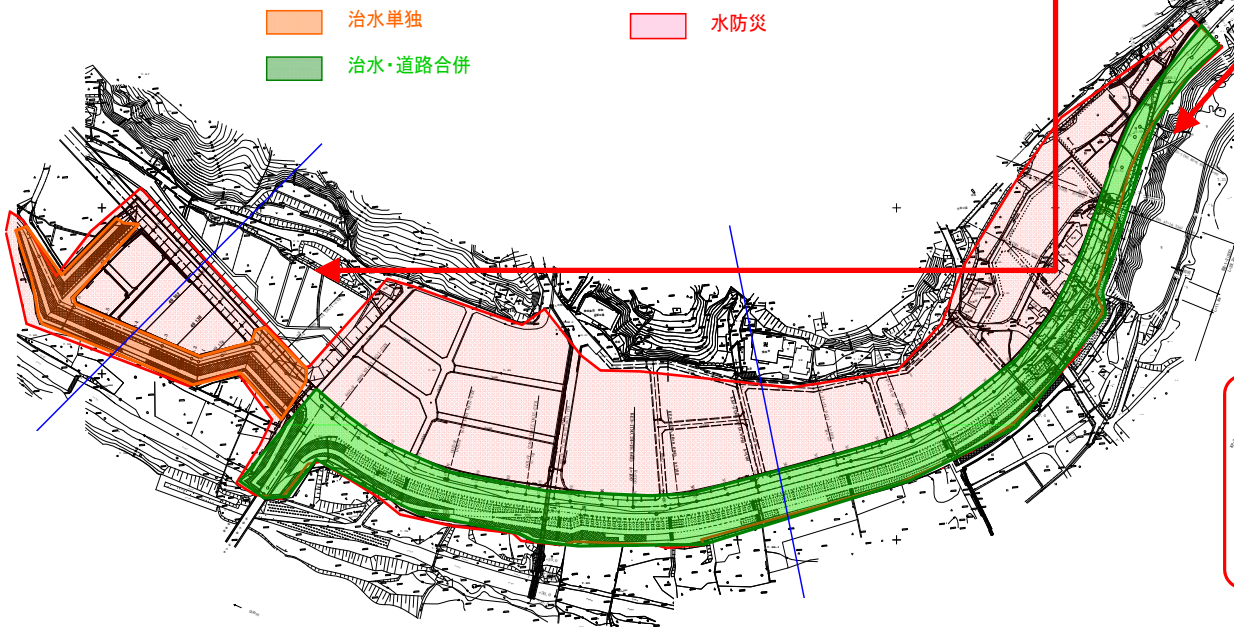
土地利用一体型水防災事業の事例

- 山間狭窄部である中下流部で**21箇所の水防災事業**（島根県内：14箇所、広島県内：7箇所）を実施
- 連続堤での整備が困難な箇所では、地域住民との合意形成、関係機関と連携・調整を図りながら事業を実施

◆吾郷地区（島根県邑智郡美郷町）



平成19年完成



吾郷大橋下流部の若者定住住宅
吾郷ニュータウンの住居者内訳

項目	人数
高校生以上	18人
中学生以下	25人
合計	43人

(令和元年度時点)

島根県美郷町 ニュータイプ町営住宅
～広い敷地に一戸建て～

吾郷ニュータウン(旧町)
石原ニュータウン(旧町) 入居者募集

「子供たちがのびのびと暮らせる町」子育ては思われた住環境を選ぶことから、子育てを安心してできるためには環境が重要。自然環境を自然のままに保ち、子育てしやすい環境は自然環境から生まれる。

- 募集要項
- 家賃 月額30,000円
 - 宅地面積は40㎡以上、家庭菜園もできる。
 - 水電費は別途で支払う(水道代)
 - 床面積は35㎡程度、生活設計(ライオン)に合わせて、増築もできます。
 - 希望な期間やチームの中から入居者が自由に選べます。
 - 募集期間 平成21年8月21日(募集の場合は当日限りまで)

入居条件 ●18歳以上のこどもで小学生以下の子どもがいるご家庭。(母子家庭も可) ●20年以上の勤続経験が望ましい。

国（河川事業）、県（道路事業）、町（若者定住住宅事業者）と連携し事業を行うことにより、**安全な生活空間を創出し、地域活性化にも貢献**

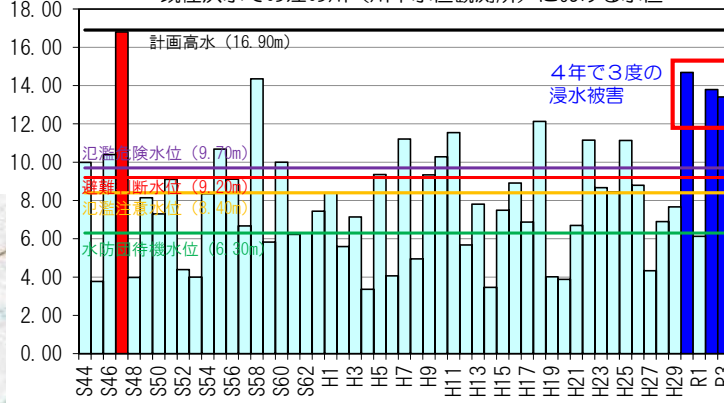
近年における中下流域の浸水被害状況

■近年（平成30年、令和2年、令和3年）に豪雨による大規模な家屋浸水等が多発

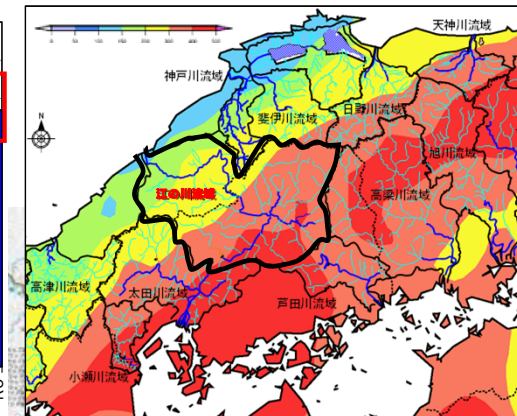
◆近年の浸水被害

洪水名	期間	浸水面積	浸水戸数	河川管理施設被害等
平成30年7月豪雨	7月5～7日	約340ha	約270戸	6箇所
令和2年7月豪雨	7月6～14日	約265ha	約100戸	14箇所
令和3年8月豪雨	8月11～19日	約190ha	16戸	1箇所

水位(m) 既往洪水での江の川（川平水位観測所）における水位



雨量分布図（アメダス）（平成30年7月5日 0:00～7月9日 9:00）



【令和3年8月豪雨：溢水】
江津市上長良地区
江の川 右岸12k付近

【令和2年7月豪雨：漏水】
江津市谷住郷地区
江の川 右岸15k付近

【令和2年7月豪雨：溢水】
川本町谷戸地区
江の川 右岸35k付近

【平成30年7月豪雨：溢水】
江津市川平地区
江の川 左岸9k付近

【令和2年7月豪雨：溢水】
江津市川越地区

【令和3年8月豪雨：溢水】
江津市田野地区

【平成30年7月豪雨：堤防決壊】
江津市川戸地区
八戸川 左岸1.3k付近（県区間）

【令和3年8月豪雨：溢水】
江津市田津地区

【令和2年7月豪雨：高水敷洗掘】
邑南町上田江平地区
江の川 左岸89k付近

緊急対策特定区間の事業概要

- 平成30年7月豪雨及び令和2年7月豪雨により近年2度の広範囲にわたる浸水被害が発生。以下の区間を「緊急対策特定区間※」に設定し、**重点的に河川整備を実施**します。
- 河川整備にあたっては、**流域市町によるまちづくりや島根県が行う支川の対策と連携**し、近年2度の浸水被害が生じた地区をはじめ、流域全体の安全確保を最大限前倒しします。

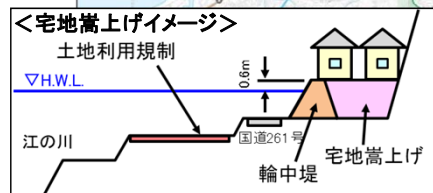
緊急対策特定区間の事業概要

事業内容：堤防整備や宅地嵩上げ等
 事業期間：令和3年度～令和12年度（10年間）
 事業費：約250億円

江の川下流部被災状況

	H30.7豪雨	R2.7豪雨
浸水面積	約340ha	約265ha
浸水戸数	約270戸	約100戸
河川管理施設被害等	6箇所	14箇所

※数値は島根県側の計上
 ※浸水面積、戸数については堤防未整備箇所における調査結果
 ※内水被害については、一部確認できたものを図示



平成30年7月豪雨



江津市川平地区の浸水状況

平成30年7月豪雨



江津市八神地区の浸水状況

令和2年7月豪雨



江津市川平地区の浸水状況

令和2年7月豪雨



江津市川越地区の浸水状況

※緊急対策特定区間

一般河川改修事業のうち、改修効果がきわめて高い区間に対し、重点投資を行い早期に事業効果を発現させることを目的として区間設定を行うものです。



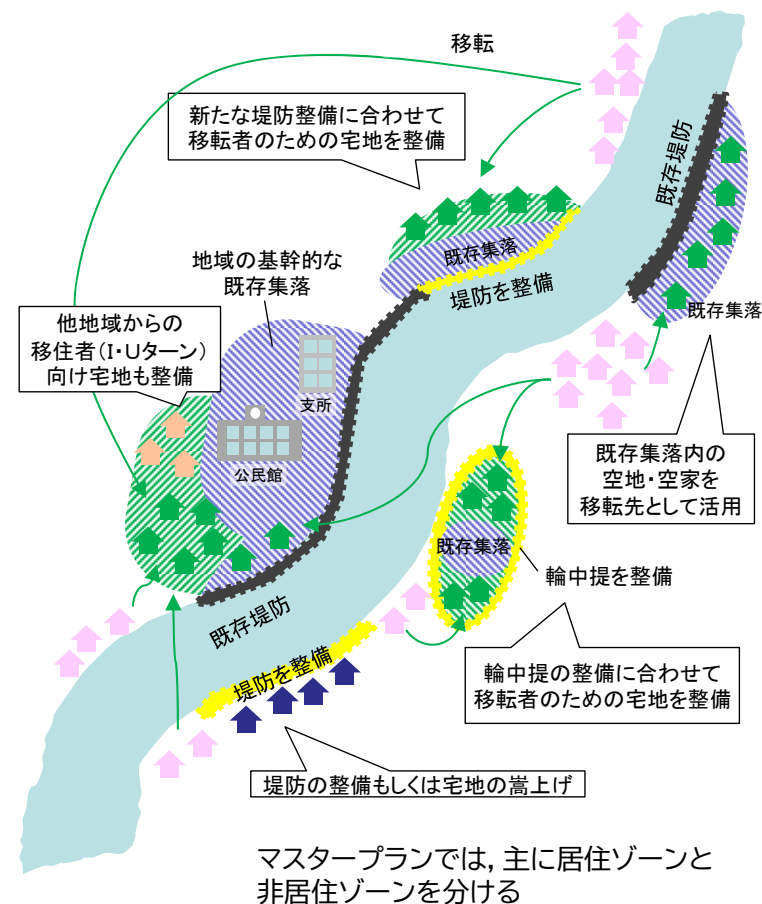
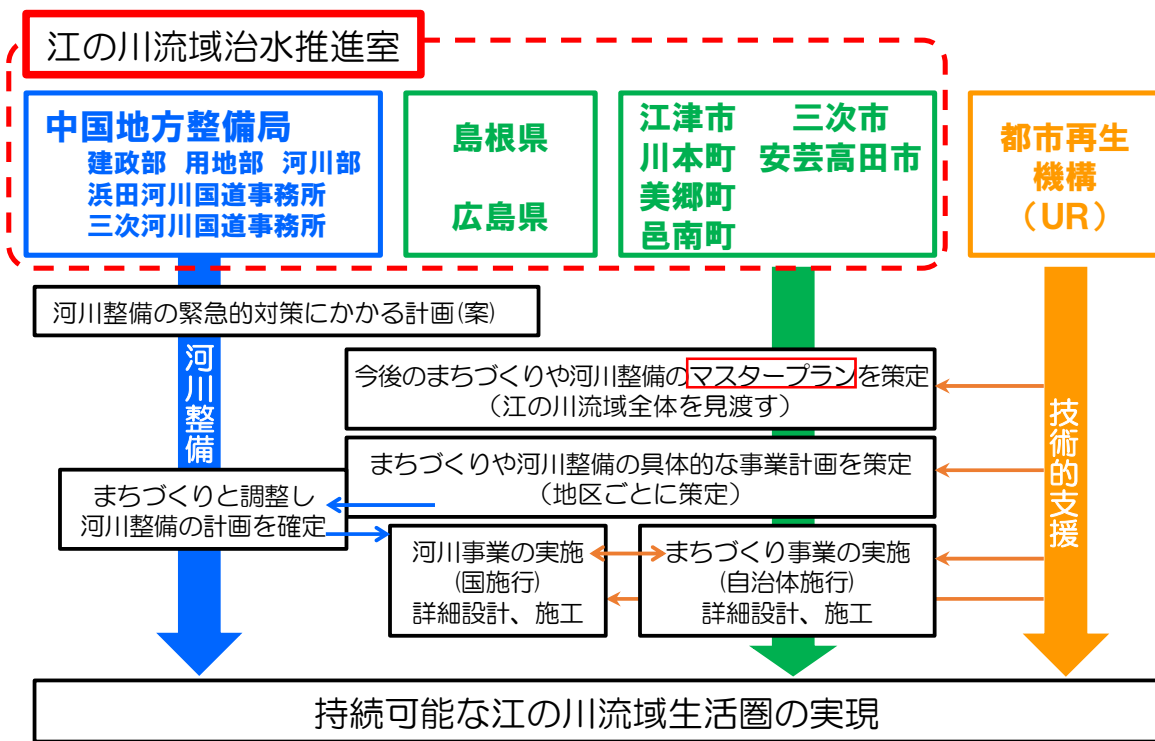
凡例

- ：浸水 (H30. 7)
- ：浸水 (H30. 7及びR2. 7)
- ：河川管理施設被害等 (H30. 7)
- ：河川管理施設被害等 (R2. 7)

江の川中下流における取組

中国地方整備局では、あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の一環として、江の川下流域において、河川整備とまちづくりの一体的推進に令和3年度から本格的に取り組む。

- ・ 堤防の整備、河道の掘削、既存宅地の嵩上げ、新たな宅地の整備、住宅等の移転、拠点集落の機能整備など多様な手法を適材適所で組合せ
- ・ 同局は、局内組織の強化、都市再生機構(UR)との連携のもと、関係地方自治体と一体となって取り組む体制を用意



【都市再生機構 (UR)】

- ・ 東日本大震災復興等でのまちづくり支援の実績が豊富
- ・ 市町・県・国への技術的助言、各主体間のコーディネートなどを期待
- ・ 関係者間の協定などによる連携明確化の検討等を踏まえた技術的支援

出典：治水とまちづくり連携計画（江の川中下流域マスタープラン）

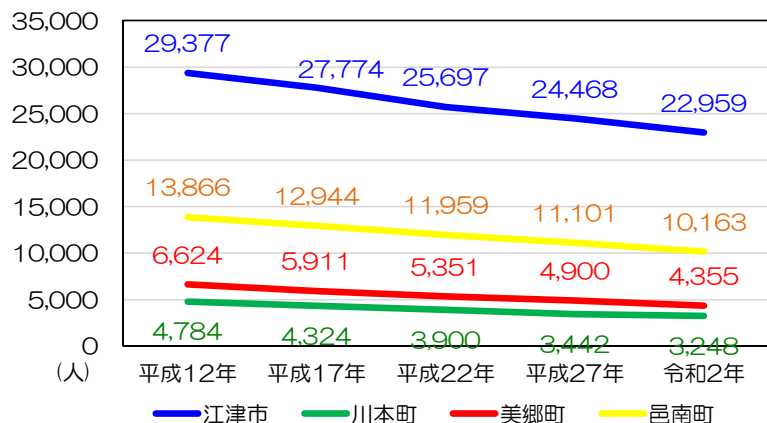
江の川中下流域の人口・経済等（抜粋）

○4市町とも近年継続して人口が減少し高齢化が進展

○主要産業の農業も農家数・耕地面積が減少した結果、耕作放棄地が増加

《人口の推移》

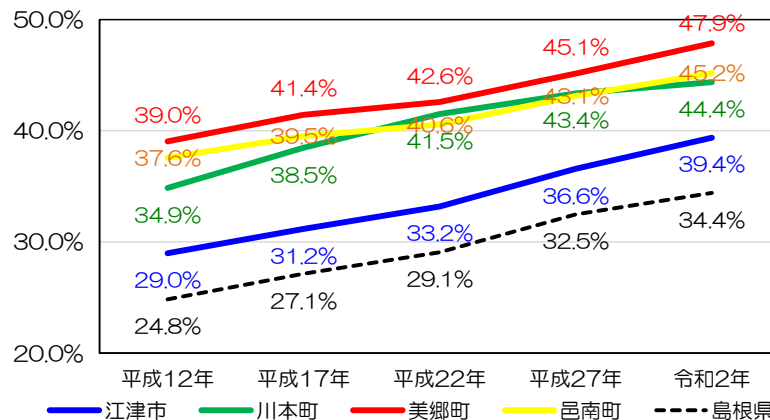
人口は、4市町とも平成12年以降、継続して人口が減少していますが、直近5年間で減少傾向は鈍化しています。



出典：国勢調査

《65歳以上の人口割合の経年変化》

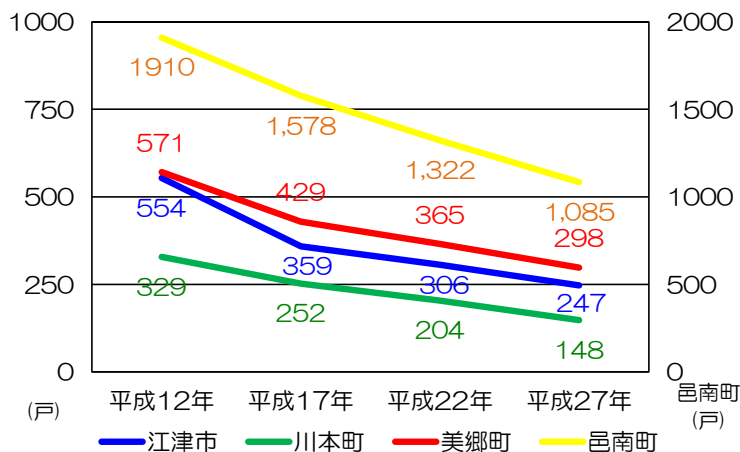
65歳以上の人口割合は20年間で7~10%増加し、島根県全体の割合と比較しても高い



出典：国勢調査

《農家数(販売農家)》

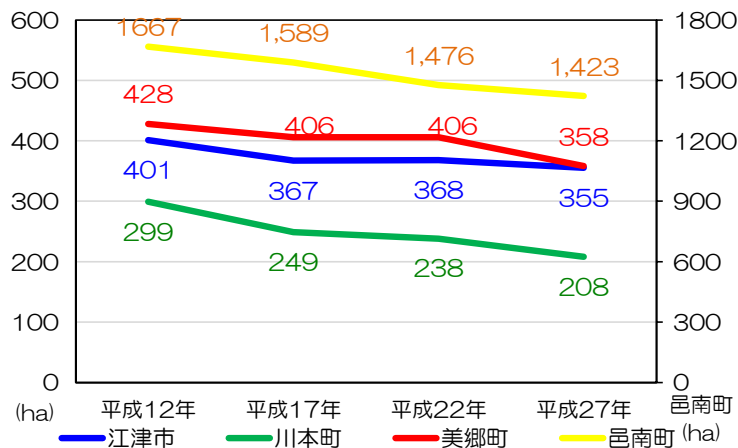
農家数は人口減少以上に減少幅が大きく、平成12年から平成27年にかけて半分程度まで減少



出典：世界農林業センサス(平成12,22年)及び農林業センサス(平成17,27年)

《経営耕地面積》

農家数に比べると減少幅は小さいが全般的に減少傾向



出典：世界農林業センサス(平成12,22年)及び農林業センサス(平成17,27年)

江の川中下流域の将来像（総合計画）

○流域市町の総合計画等においては、**人口減少対策を推進するためにも重要な子育て、教育、福祉、自治、コミュニティといった「地域連携(集落内での営み)」、「安全・安心」、「地域発展」**が位置づけられています。

江津市

【教育・文化・スポーツ】

豊かな心を育む芸術・文化・教育・スポーツのまちづくり

【人権・コミュニティ・市民参画】

コミュニティがいきいきと輝くまちづくり

【健康・医療・福祉】

健康で安心して暮らせるまちづくり

【防災・都市基盤・生活環境・情報】

安全で快適な暮らしを支えるまちづくり

【産業】

活力ある産業で豊かな生活を築くまちづくり

【自然環境】

自然を活かしたふれあいのあるまちづくり

美郷町

【教育】

美郷町を担う心豊かな人づくり

【健康福祉】

生涯を通じて健康で安心できるまち

【住民自治】

連帯の絆で支え合うコミュニティのまち

【生活基盤】

利便性の高い快適な暮らしを実感できるまち

【産業・雇用】

人と地域の個性を活かした産業を創出するまち

【未来創造】

美郷町の活力ある未来を創っていくための戦略

川本町

【暮らし】

住み慣れた地域の暮らしを維持するための、持続可能な地域運営・たすけあいの仕組みづくりを推進

【教育】

子ども達の夢を育み、挑戦する人材を育むための、子育て・学びの環境を充実

【安全】

すべての住民が安心して暮らせるための、防災・減災対策や生活基盤の整備を推進

【産業】

暮らしを支える生業、地域資源を活かした産業が根付くための、産業育成・起業支援

邑南町

【地域コミュニティの一体感醸成】

地域が自立し、未来へ共に歩む協働のまち

【教育文化】

ふるさとを学び、人と文化を育む心豊かなまち

【交通情報交流】

交流と暮らしを支える利便性の高いまち

【保健医療福祉】

地域で支え合い誰もが健康で生涯元気なまち

【環境防災防犯定住】

豊かな自然と共生し、安心して住み続けられるまち

【産業】

地域資源を生かした活力あふれるまち

- 地域連携（流域内での営み）
- 安心・安全（ハード対策とソフト対策）
- 地域発展（地域再生と創生）



地域資源を活かした付加価値の創出

～新たな活動の芽吹き、頑張る人たち～

○水豊かな江の川、山懐に抱かれた江の川、歴史的にも神聖な地江の川。
この地ならではの歴史、文化、地域資源が残り、新たな「生業の芽吹き」があります。

【江津市の桑茶】

養蚕業が荒廃し放置されていた遊休桑園を再生し、雇用の場を創出し6次産業化を実践しています。



出典：
<https://52hataraku.net/archives/200>

【川本町のエゴマ】

行政と協働しエゴマの振興を行い、希少価値の高い川本町の特産品として発展しています。



出典：<https://e-egoma.net/>

【美郷町のカヌー・カヤック体験】

カヌー・カヤックの体験が一年中可能。キャンプ場もありアウトドアを満喫できます。



出典：https://www.all-wiame.com/reservation/detail_1026.html

【江津の水田】

江の川沿川の肥沃な土地では広く水田が形成されています。取水ポンプで江の川から用水を賄い沿川の主要作物となっています。川平町では伝統行事として「花田植え」が今に継承されています。



出典：江津市

【音楽のまち川本町】

町の活性化事業として策定された「緑にこだます音楽の里」計画に基づいて、「野外音楽堂」や「かわもと音戯館」などが次々と完成しています。



出典：<https://www.kawamoto-kankou.jp/music/>

【おおち山くじら】

美郷町で駆除捕獲された猪の約80%を回収・処理し、その肉や皮を地域資源として役立てる取り組みを行っています。



出典：<http://yamakujira.jp/>

【邑南町の旧宇都井駅を活用した地域振興】

地上20mの天空の駅として知られている江の川沿川にある旧宇都井駅は邑南町がJRから取得し、三江線鉄道公園として開園しており、現在はNPO法人江の川鐵道が指定管理者として運営しています。

毎年11月にINAKAILUMIを開催し、地元食材をふんだんに使った食と、手づくりのイルミネーションで地域振興を図るほか、旧三江線のレールを使って年間40日程度トロッコを運行しています。

出典：<https://illumizikkouzuui.wixsite.com/website> <https://gounokawa.com/about/>

【邑南ブランドの「邑南野菜」】

邑南野菜は、町内で古くから栽培されている野菜や新たに取組みが始まっている有機野菜から西洋野菜等の高品質の野菜や珍しい様々な野菜を言います。

環境に配慮した土づくりや化学肥料を削減するなど環境にやさしい栽培が行われていることが特色です。

出典：<https://www.town.ohnan.lg.jp/www/contents/1583296616253/index.html>

出典：治水とまちづくり連携計画（江の川中下流域マスタープラン）



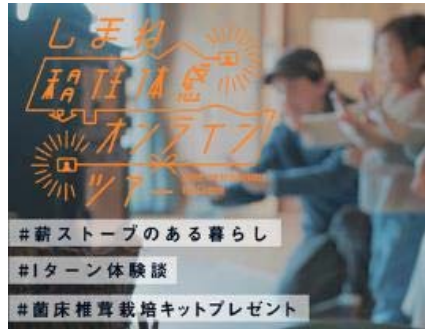
地域運営・たすけあいの仕組みづくり

～江の川とともに芽吹く「人と活動」～

- 流域市町で様々な人々が特色ある活動を実施しています。
- 流域の恵みに抱かれ、支えられているからこそこの「人の活動の芽吹き」があります。

NPO法人てごねっと石見

- ・ソーシャルビジネス等の創業を目指す若年世代の人材誘致・発掘するための「ビジネスプランコンテスト(Go-con)を運営
- ・その他にも、人材育成、キャリア教育事業、地域活性化に関わる事業等、数多くのイベントを開催



かわもと暮らし

- ・川本町の移住サイトで、かわもと暮らし情報センターでは専任スタッフがあらゆる相談にワンストップで対応
- ・申込者自らが体験内容を選択できる移住体験プログラムだけでなく、オンライン相談や移住体験オンラインツアーなど、柔軟な対応によりUターン・Iターンの推進に向けて展開

NPO法人島根有機農業協会

- ・有機農業チャレンジスクールの開校等により、有機農業の技術、土壌管理、就農者の相談業務等を実施
- ・有機農業に関する各種の情報を広く発信・提供
- ・改正JAS法に基づく農林水産省登録認証機関



神谷棚田保全組合

・上田平佐棚田保存会

- ・江の川流域の上流部に位置し、その影響を受けた気温の寒暖差により良質の米が生産される棚田と豊富な自然景観を活かした、グリーンツーリズムとして都市住民との交流等により集落活性化を促進。
- ・棚田オーナー制度等、農産物の収穫体験や関係人口による農作業補助などを通じて耕作農地保全を推進し、担い手の発掘、農産物販売促進のPRに取り組む。



将来世代まで住み続けられる

江の川中下流域を目指した3つの方針

1. 浸水被害状況

江の川は三次盆地より下流に下るにつれ狭隘部のため堤防整備が難しく、土地利用一体型水防災方式も取りながら進めてきましたが、整備延長が長く整備に期間を要しています。

近年水災害が激甚化・頻発化していることから、従来の河川整備に加え災害リスクが高いエリアからの移転など、被害対象を減少させる対策も必要になっています。

2. 人口・経済等

高齢化や人口減少進行しており、効率的な社会資本の整備が求められています。

人口流出を防ぐために安心安全な地域づくりとして、早期の治水対策が求められています。

また、人口減少社会において地域の活力を維持し、強化するためには、中心市街地及び副次拠点に行政や医療、商業、文化などの機能を集積しコンパクトなまちづくりと地域公共交通ネットワークを維持・確保することが必要です。

3. 生業・人と活動

水豊かな江の川は歴史的にも神聖な地であり、この地ならではの歴史、文化、地域資源が残り、新たな生業も生まれています。各地域で進められる活動を継続し、持続可能な地域づくりとまちづくりが必要です。

上記の3つの課題・各種計画等との整合を図り、将来世代まで住み続けられる江の川流域を目指します。流域に関わる全ての関係者が心をひとつにして臨める、持続可能な地域づくりとまちづくりの観点から、以下のマスタープランの方針を提案します。



方針① 地形的特性を踏まえたあらゆる関係者の協働による治水対策

方針② コンパクトで安全な地域拠点づくりと拠点間ネットワークの形成による地域創生

方針③ 治水対策と地域創生の両立を目指し住民・行政が協働した地域づくり

方針① 地形的特性を踏まえたあらゆる関係者の協働による治水対策

- 江の川中下流部の地形的特徴を踏まえ、早期に住民の生命等を豪雨災害から守る観点に立ち、従来の堤防整備、家屋の嵩上による対策に加え、安全な地区・地域への移転（移住）を進めます。
- 移転の受け皿となる居住地整備を「コンパクトで安全な地域拠点づくり」と連携して進めます。
- あらゆる関係者の協働による治水対策を進めます。



方針② コンパクトで安全な地域拠点づくりと拠点間ネットワークの形成による地域創生

- 江の川中下流域を構成する市町の集落において、**コンパクトで安全な地域拠点づくり**を進めます。
- 地域拠点づくりを支える「生業」の育成とともに「人の活動」の醸成を進めます。
- 都市拠点と地域拠点間をネットワークでつなぎ、地域創生を目指します。

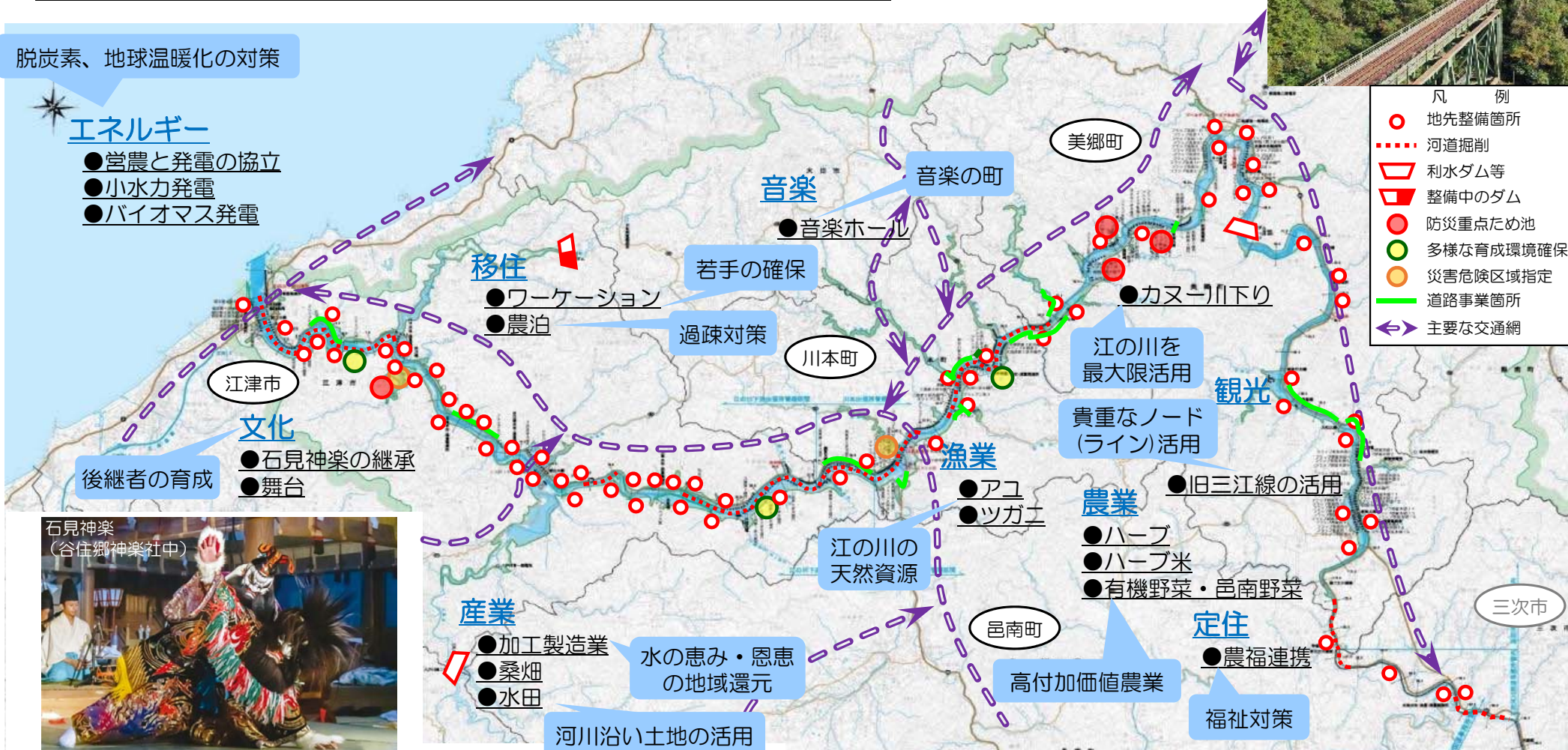
旧三江線の活用



脱炭素、地球温暖化の対策

エネルギー

- 営農と発電の協立
- 小水力発電
- バイオマス発電



- 凡 例
- 地先整備箇所
 - ⋯ 河道掘削
 - ▭ 利水ダム等
 - ▭ 整備中のダム
 - 防災重点ため池
 - 多様な育成環境確保
 - 災害危険区域指定
 - 道路事業箇所
 - ↔ 主要な交通網



石見神楽 (谷住郷神楽社中)



美郷町サテライトオフィス



悠呂ふるさと会館



食の学校



しまね森林発電所(バイオマス発電)

方針③ 治水対策と地域創生の両立を目指し住民・行政が協働した地域づくり

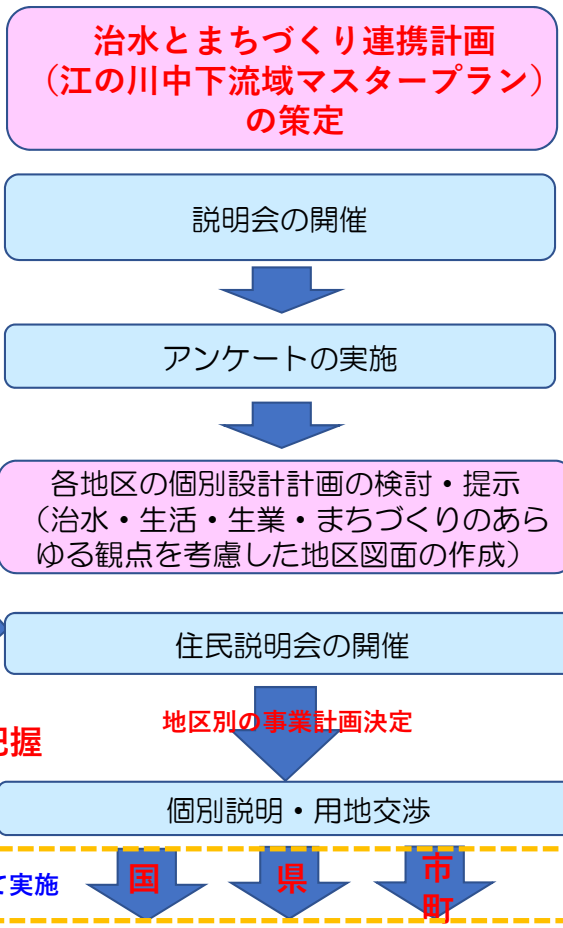
- 方針①②を踏まえ、各地域拠点の将来計画案を関係行政機関が連携して検討・提案し、地域の皆様と意見交換を行いながら住民・行政が協働した地域づくりを進めます。
- 地域づくりの進捗状況は、絶えず地域の皆様と共有できるよう努めます。
- 早期に事業を実施、完了させ、治水対策と地域創生の両立を目指します。

- ・今後の事業実施に向けては、治水とまちづくり連携計画（江の川中下流域マスタープラン）の説明会、事業の計画時に各地区におけるアンケートを実施し、各地区の計画策定に反映します。
- ・事業検討・説明・反映に際しては推進室各機関が連携して実施し、地域のニーズ把握と、事業への反映に努めます。

- ・行政間の連携による流域全体の事業を、地域住民へ情報発信を行います。
- ・住民意向把握のため、アンケート等を反映した地域づくりに取り組みます。



各地域の意向に沿った整備の進め方



治水とまちづくり連携計画（江の川中下流域マスタープラン）の更新

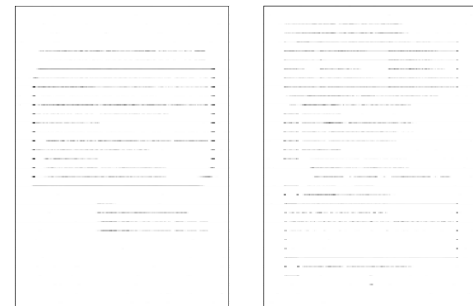
現地事業説明会（イメージ）



広報誌による情報発信「江の川だより」



アンケート調査（イメージ）



推進室ホームページ、X (旧Twitter)による情報発信



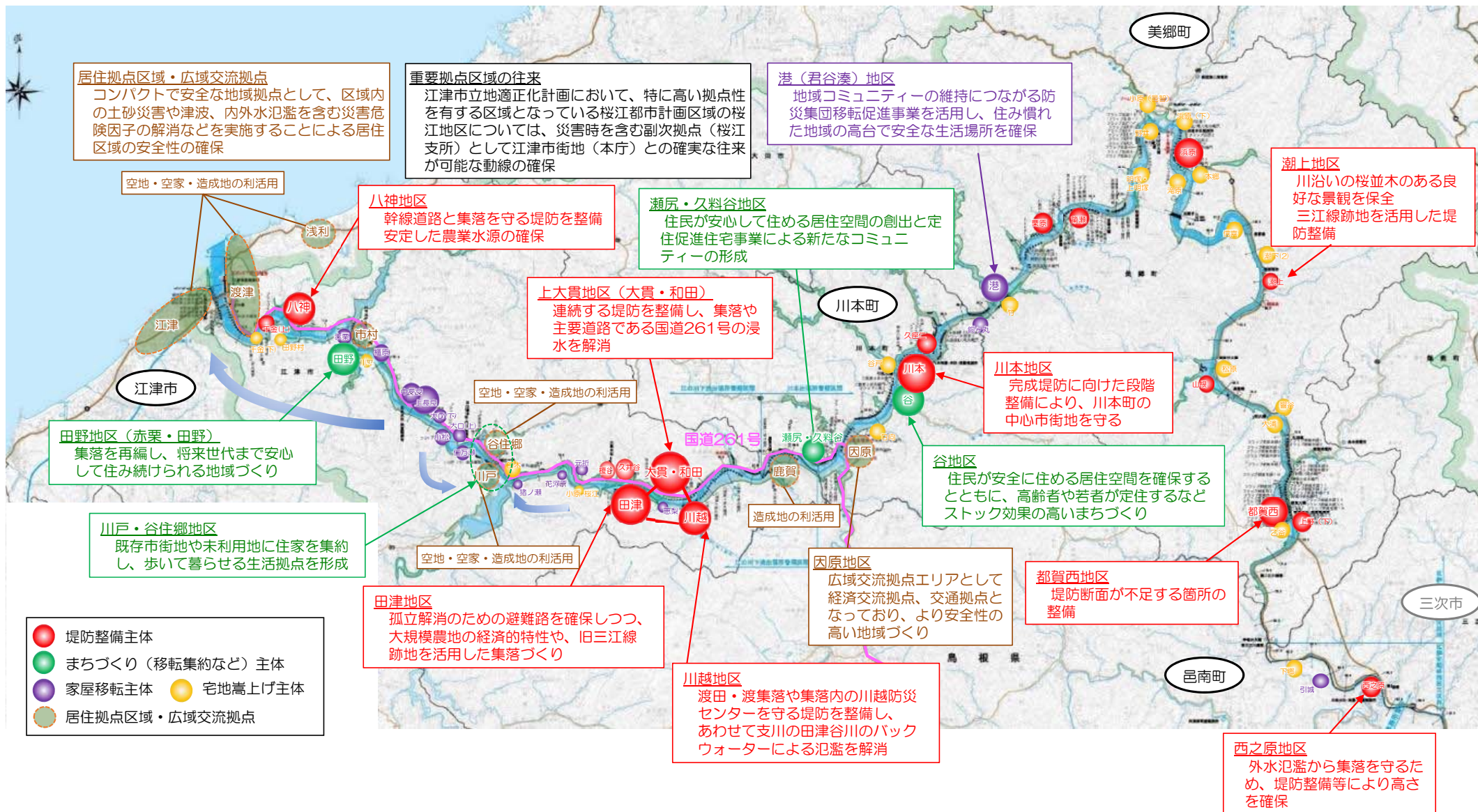
計画案への意見交換イメージ



江の川中下流域の将来像イメージ

○前述の方針を踏まえ、将来世代まで住み続けられる江の川流域の将来像のイメージを以下に示します。

○これらを通じて、将来世代まで住み続けられる江の川流域を目指します。



地区別計画作成の進め方

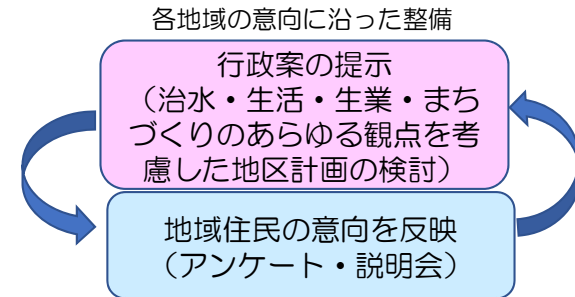
- 江の川沿川の早期の安全確保を目標に、各地区において最適な整備案を提案します。
- 提案にあたっては、**治水対策を基本としたまちづくり計画を、生業や生活、災害時の避難等様々な観点から提案します**
- 現在事業中箇所については早期の完成を目指すと共に、近年の再度災害防止のため、防災対策を強化します。
- アンケート調査や住民説明会により合意形成を図り、住民意見を踏まえた上で、早期の治水整備・まちづくりを進めます。**

【江の川沿川での計画案】



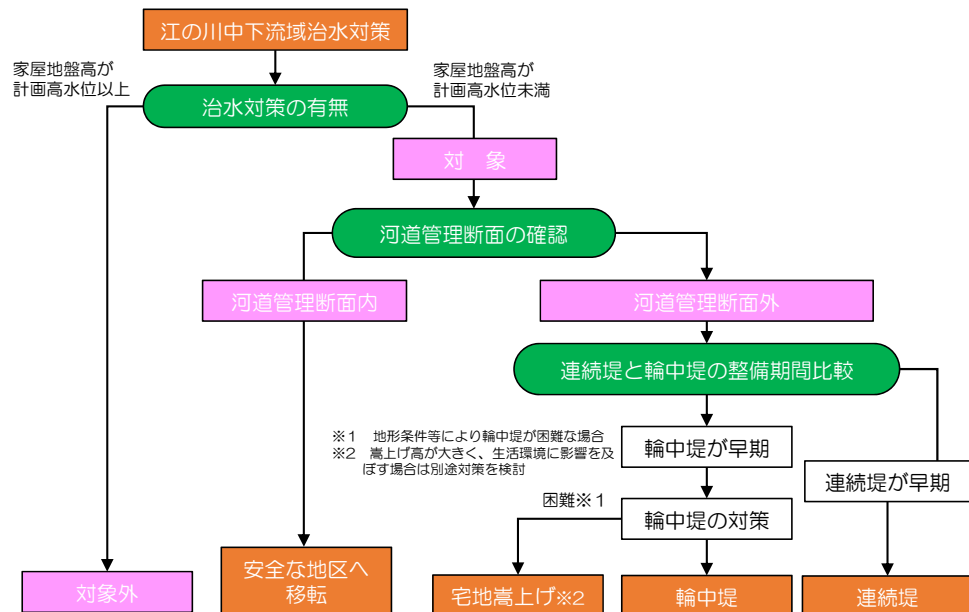
【計画決定から事業まで】

マスタープランに沿って行政案を提示します。
行政案を提示した後、住民意見を反映しながら、地域の合意形成を図ります。
地区別の計画決定後は、速やかに事業実施を図ります。



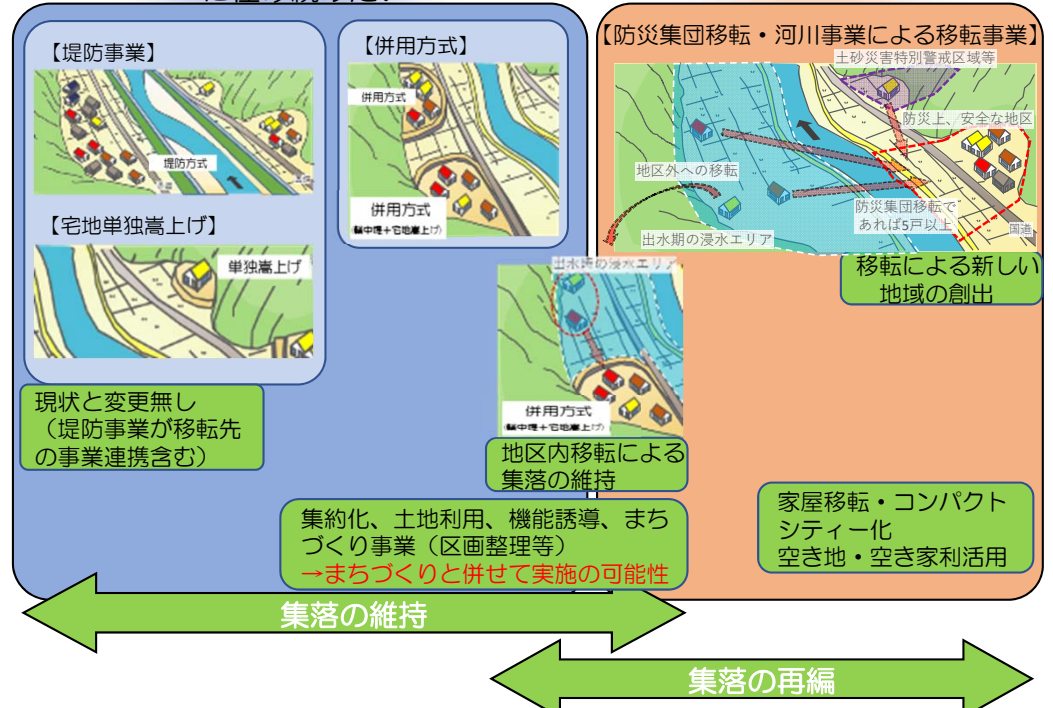
【地区別の治水対策に向けたフロー】イメージ

計画案の検討にあたっては、早期の安心・安全確保を目指して、期間を最も重視して検討を行い、住民の方々に提示します。



生活環境を変えず同じ地区・地域に住み続けたい

安全な地区・地域へ移転 (移住) したい



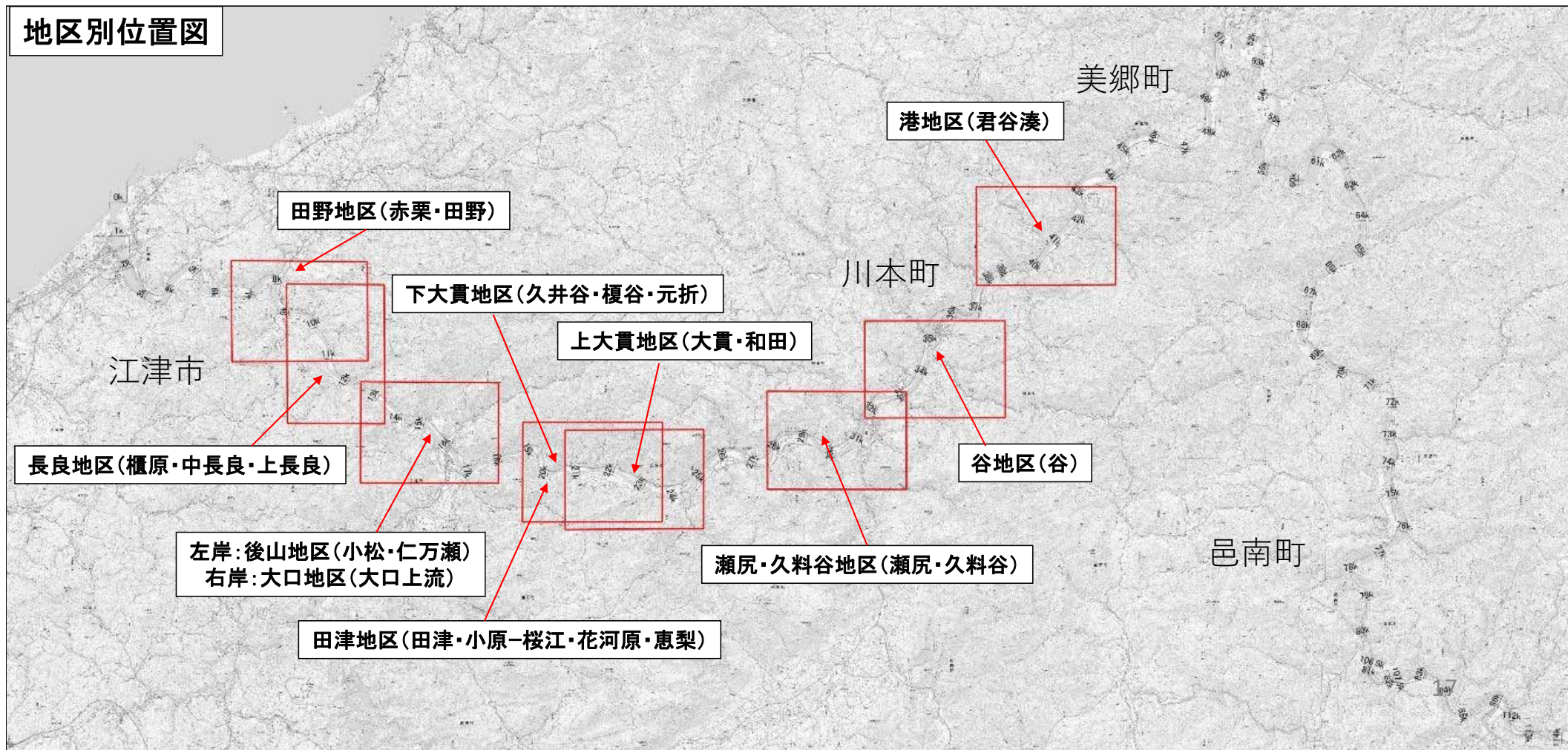
■地区別計画

○地区別計画は、H30、R2、(R3)で家屋浸水被害を受けた緊急対策特定区間を中心とした、検討・調整が進んでいる地区の詳細イメージです。

○各集落の整備方針については**住民対話を踏まえた上で、地元合意を得て決定**しており、今後、詳細な調査・設計により関係者との協議・調整を進め、事業を推進します。

○今回記載の集落以外については、現在実施している事業の進捗を考慮しつつ、今までと同様に集落ごとの将来イメージを共有しつつ、集落単位や自治会単位で住民対話集会や意向調査を踏まえ、関係者による治水対策を協議・調整を行っていきます。

地区別位置図



瀬尻・久料谷地区(瀬尻・久料谷)

整備方針：宅地嵩上げ(R261嵩上げ併用)

■地区の特徴

上下流地区ともに堤防による河川整備が実施済み。
 国道261号も出水のたびに冠水している。
 当地区は整備計画で水防災事業として位置付けされ、
 川本町においても定住促進住宅の計画も検討中。

■目標像

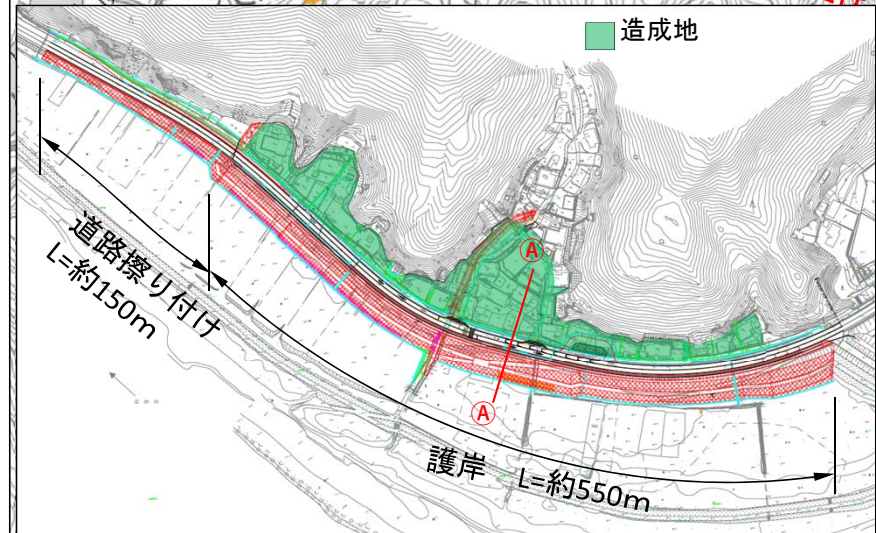
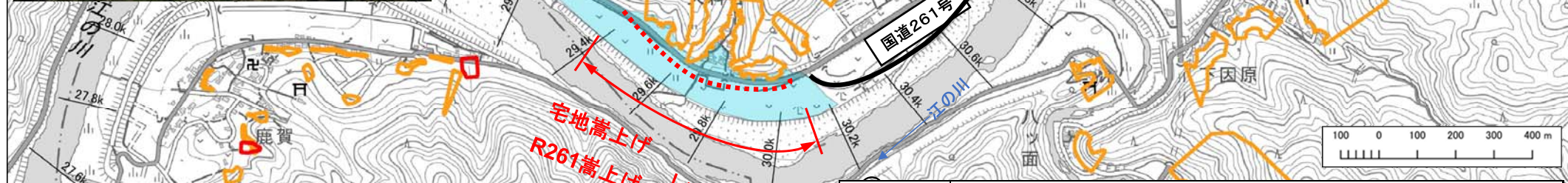
背後地創出による新たなコミュニティ創出を目指す

■対策イメージ

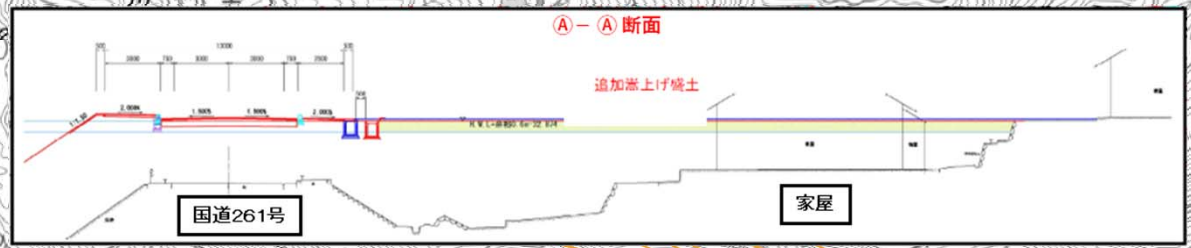
宅地と国道261号を併せて嵩上げすることによる浸水対策



- 凡例
- : HWL浸水範囲
 - : 特別警戒区域(土石流)
 - : 特別警戒区域(急傾斜)
 - : 既存の堤防
 - ⋯ : 計画されている護岸



	緊急対策10年間		
	短期(R3~R6)	中期	長期
調査・設計	■		
用地	■		
工事		■	■
家屋再建			■



谷地区 (谷)

整備方針：宅地嵩上げ(まちづくり計画と協調)



川本地区

川本町中心部の川本地区と谷地区との位置関係

谷地区

■地区の特徴

地区内を流れる支川 矢谷川を中心に平地が広がっている。地区内には家屋と事業所があり、江の川のバックウォーターにより矢谷川が氾濫する。

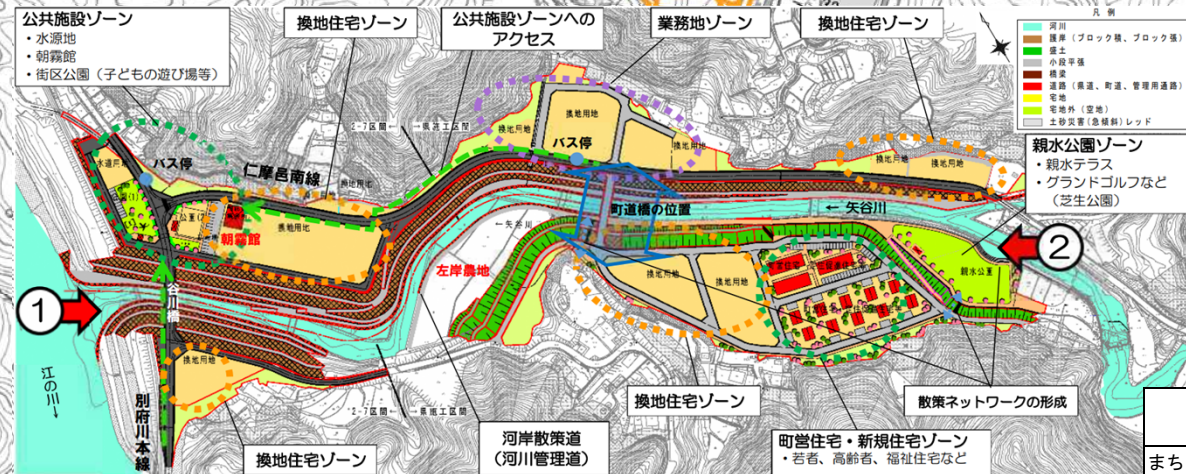
■目標像

あらたな空間と高齢者や若者が定住するまちの創出を目指す

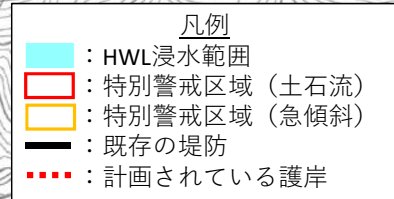
■対策イメージ

- ・宅地嵩上げによる浸水対策
- ・宅地面積の確保とまちづくり計画

まちづくり構想の完成イメージ



谷地区



谷地区

	緊急対策10年間		
	短期(R3~R6)	中期	長期
まちづくり構想作成	■		
調査・設計	■		
用地		■	
工事		■	■
家屋再建			■



① 矢谷川下流から上流を望む

② 矢谷川上流から下流を望む

※現在協議中の箇所もあり、内容について変更となる場合があります

出典：治水とまちづくり連携計画（江の川中下流域マスタープラン）